

ヒノキ原木ナメコ栽培に適した種菌品種の選定

林業試験場

[研究のねらい]

これまでヒノキ間伐材を活用した原木ナメコ栽培技術を検討してきましたが、サクラ原木に比べ発生量が少ないことや種菌品種により適性が異なることが課題でした。そこで、本県のヒノキ原木栽培に適し、収量が多く安定生産が見込めるナメコ種菌品種を選定しました。

[研究の成果]

- ①調査の結果、「北研N201号」が最も発生量が多く、原木1本当たり86.8個、334.3gとなりました。また、1、2年目ともに約150gと安定した収量となりました(表1、図1)。
- ②3年目の発生は僅かであり、ほだ木の有効寿命は2年でした。当品種のサクラ原木に対する収量割合は59%でした。
- ③本研究では、「北研N201号」を本県のヒノキ原木栽培に適したナメコ種菌品種として選定しました。

[成果の活用面・留意点]

- ①サクラ原木に比べヒノキは軽量で確保が容易であり、植菌1年目で収穫可能であることが特長です。
- ②ヒノキ原木は伐採直後の乾燥していないものが良く、伏せ込み方法は「接地伏せ」が適しています。

表1 種菌品種別発生量(平成21~23年度)

種菌 No.	種菌品種名	原木1本当たり収穫量の3年間合計 (直径10cm換算値)		備考
		個数	重量(g)	
1	東北 N109号	26.4 ± 19.8	81.6 ± 67.8	b**
2	加川 KM-88号	32.7 ± 22.5	176.8 ± 128.4	
3	河村 63号	17.3 ± 12.0	57.8 ± 46.2	b**d*
4	大貫 N2号	27.9 ± 34.0	74.5 ± 81.9	b**
5	北研 N201号	86.8 ± 48.7	334.3 ± 166.6	a**
6	日農 953	40.2 ± 30.8	114.7 ± 89.8	b**
7	河村 早生	57.4 ± 27.0	166.1 ± 79.5	
8	菌興 早生	41.6 ± 29.2	208.8 ± 150.0	
9	森 3号	39.6 ± 37.0	120.4 ± 143.8	b**
10	森 2号	73.0 ± 32.3	233.4 ± 92.3	c*
11	森 1号	64.7 ± 39.2	218.2 ± 119.6	

種菌:H21.3.5 原木基準:直径10cm長さ1.0m 植菌駒数:30個/原木
※同列異符号間で有意差あり (*:1%水準で有意 **:5%水準で有意)

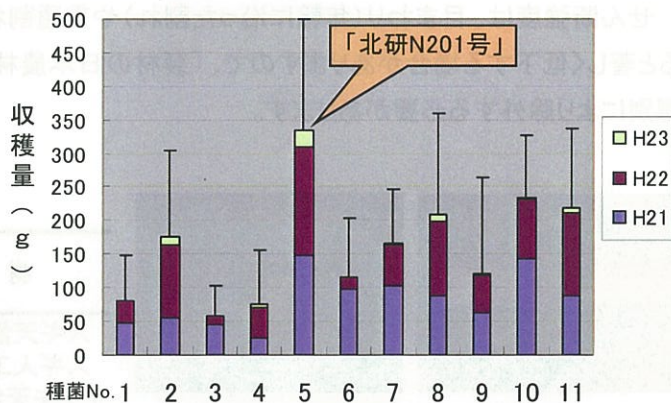


図1 ヒノキ原木ナメコの種菌品種別発生量



写真1 発生状況

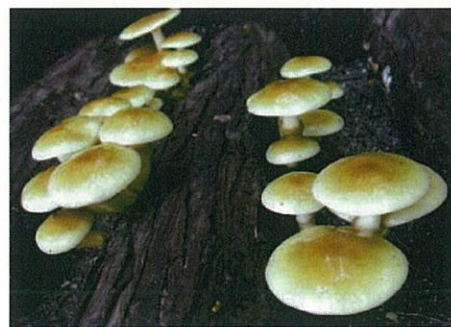


写真2 北研N201号

(問い合わせ先 0739-47-2468)